

## 令和3年度 新栄高等学校不祥事ゼロプログラムの検証等

### ○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
① わいせつ・セクハラ行為の防止	絶対にあってはならない行為として、防止への徹底を図る。	不祥事防止研修会等において、これらの行為が、成長途上の生徒へ大きな影響を及ぼし、県民の信頼を失うことを再認識させ、意識の向上を図れた。
② 法令遵守意識の向上	公務外非行防止の注意及び倫理意識の徹底を図る。	啓発資料等により事例を紹介し、原因を各自が考えるなど、当事者意識をもって業務にあたることができた。
③ 体罰、不適切な指導の防止	生徒への影響を常に意識できるよう資質の向上を図る。	適切な指導のあり方を、職員全体で共有するとともに、教員の指導が生徒に与える影響の大きさを再認識し指導にあたった。不適切な事案はなかった。
④ 成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	マニュアルに沿った適正な作成及び点検を徹底する。	成績処理支援システムによる成績処理や調査書発行などにおいて、マニュアルの確認、複数の点検を徹底し、事故を防止することができた。
⑤ 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	定期試験ごとに注意を徹底する等、事故防止に努める。	試験後にシュレッダーを一定期間使用禁止にする等、個人情報記載文書や答案の紛失や誤廃棄等の防止を図った。やむを得ず持ち出す場合も、ルールを徹底させた結果、紛失、誤廃棄による事故の発生はなかった。
⑥ 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	プライベートを含めた交通法令 遵守への意識を高める。	不祥事防止研修会や打合せ等の機会に、事例演習を行うなど交通法規の遵守への啓発を行い、交通違反や交通事故を防ぐことができた。
⑦ 業務執行体制の確保等(情報共有、相互チェック体制、業務協力体制)	県民の信頼に応え全体の奉仕者として自覚を持つ。	学年やグループ等において、各担当業務を複数で共有・確認するなど適正な業務を進めるとともに、各自が当事者意識をもって業務を行うように取り組んだ。
⑧ 会計事務等の適正執行	私費会計基準に基づき、会計の適正執行を徹底する。	新栄高校予算、会計ハンドブックをもとに研修を行うとともに、会計ごとに指導を重ねることで、適正な会計執行を行うことができた。
⑨ 適切な入学者選抜の実施	適正な業務の実施により、信頼される入学選抜を行う。	在県外国人特別募集の対応を含め、入学者選抜業務における事前準備から実施までの手順を遵守し、課題を検証しながら、適切に行うことができた。

### ○ 令和3年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和4年度に取り組むべき課題

- ・ 不祥事防止会議や研修会を通じて、わいせつ事案等への不祥事防止の徹底を図れた。
- ・ 臨時的任用職員、会計年度任用職員にも指導を行い、学校全体で意識の向上を図れた。
- ・ 様々な業務において、当事者意識をもって取り組んでいる。

〔課題〕

- ・ 不祥事防止研修会を充実させるなど、教員の資質向上を達成する。
- ・ 絶対に不祥事を起こさない決意で業務に臨むよう、常に学校全体で意識を高揚させる。